

WAKO CIRCLE

和光大学通信
No.
129
2011/07/15

WAKO CIRCLE

No.129

2011/07/15

発行人 ●伊東達夫
発行所 ●和光大学 東京都町田市金井町 2160 ☎044-988-1433 <http://www.wako.ac.jp/index.html>

CONTENTS

- 日本語をしゃべるウサギがつかないだ夢 ●大学で会おう
- Campus Snap(夏休み何をしますか?) ●Club Activities(水泳部)
- 東日本大震災について ●MY CHOICE 水野谷剛先生



OUR NEIGHBORS

Vol.9

～隣人探訪～

岡上こども文化センター 館長 大浪 よし子さん

岡上こども文化センターは、小中高問わず放課後の生徒達が自由に遊ぶ、地域住民も集う憩いの場だ。

館長を務める大浪よしさんはこう語る。

「単に遊ばせておけばいいという場にはしたくないんです。ここが安心や友達を生む場として、子ども達の心のケアに繋がったらいいですね」

取材中も、そばで子ども達が元気に走り回っていた。アットホームで心のゆとりを育む空間を目指しているセンターが、彼らの馴染みの場所になっていると感じた。

「皆で楽しく遊ぶためには守るべきルールもあるの。初めのうちはそうした約束がわからなかった子どもも、次第に自主的に約束を守れるようになってくる」という大浪さんの言葉から、学外での経験や言葉が、成長期の子ども達にとって貴重なものとなるのがわかる。

そうした子ども達の経験にもつながる活動のひとつに、和光大学とセンターとの関係がある。

身体環境共生学科の大橋さつき研究室が主導で行なっている「ムーブメント教育・療法」とのコラボレーションがそのひとつで、以前も交流はあったが、昨年からは学生達の自主的な働きにより連携が実現した。

こうした試みは和光大学と地域を直接つなぐ架け橋にもなっており、ベビーカーを押したお母さん達の姿を和光大学

の食堂で見ることができると、その例だ。

センターは、地域住民同士の交流を大切に育んできたのももちろん、センターが主催して、毎回さまざまなイベントを行なう「おかつサロン」、子どもを持つお母さんの心のケアにもなる「おかつママ」など、多種多様な行事を開催し、その場所を提供している。

こうした活動を支えるのは、センターの柔軟な姿勢だ。「よかれと思ってやったことが、受け取り方の違いで失敗することもあるの」

失敗と改善を繰り返し、眼と眼を合わせて初めて見えてくる思いもある。それは大人も子どもも変わらない。そうしたコミュニケーションの基本をしっかりと持っているからこそ、地域とのつながりが強いものになってきたのだろう。

センターはNPOになってから今年で6年目であると同時に、新たな5年間の始まりの年でもある。大浪さんをはじめ職員の方々は、より一層地域との輪を強くして、人々の心の安らぎの場所となるよう活躍していくはずだ。

「地域に支えられているのが岡上こども文化センター。その恩返しに、少しでも快適な環境作りや地域との交流を心がけています」そう語った大浪さんの笑顔の後ろでは、相変わらず子ども達の笑い声が元気に響いていた。

(文 = T.R)